

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

## I 自己評価

1 学校教育目標	「自主、自律、自学」の校訓に基づき、社会的・職業的自立に向けた基礎となる力を育て、グローバル社会の中で貢献できる生徒の育成を目指す。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な知識・技能を修得し、思考力・判断力・表現力及び自ら考え学ぶ意欲や態度を身につけた生徒</li> <li>・豊かな人間性や情操とともに、自らの行動に責任をもち主体的に判断し行動する態度や、積極的に自己を活かす能力を身につけた生徒</li> <li>・自己の在り方や生き方を考え、主体的に自らの進路を考える能力や態度を身につけた生徒</li> <li>・地域社会への理解や関心を深めるとともに、国際化に対応できる能力を身につけた生徒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味・関心を喚起し、思考力を高める授業の推進</li> <li>・信頼と愛情を基盤とし、生徒理解に徹する指導の推進</li> <li>・将来を見据えた体系的なキャリア教育の推進</li> <li>・自主的、実践的な態度とともに、豊かな人間関係の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の教育目標及びグラデュエーション・ポリシーを理解し納得するとともに、カリキュラム・ポリシーに沿った教育に進んで取り組む意欲のある生徒</li> <li>・「自主、自律、自学」を身につけ、「自分らしい生き方」へ向かって進む意欲のある生徒</li> </ul>

3 評価する領域・分野	◇教務部（教育課程・学習指導）		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>○ICT活用に関しては、教員間で誰もが利用できるスキルの共有が進んだ。また、教科内外での情報交換により、教材の開発と蓄積も進んだ。</p> <p>○教員が毎時間タブレットを使用して授業を行い、生徒が能動的に活動する場面が増えた。また、タブレットを使用した小テストや添削を導入した教科もあり生徒の主体性の向上だけでなく、教員の働き方改革にもつながった。</p> <p>▲タブレットの落下による破損は減ったが、登下校の際の破損が増えた。</p> <p>▲観点別学習状況評価に関しては、各教科で研究を進め、何とか評価することができたが、評価と指導の一体化というところまでは進んでいない。</p>		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用と授業改善を両輪とした確かな学力の定着。</li> <li>・指導と評価の一体化の推進。</li> </ul>		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科、学年、分掌の枠を越えて、授業参観や情報交換を行う。</li> <li>・校内研修会を様々な形で実施する。</li> <li>・学校全体でデジタル化を進める。</li> </ul>		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 校外の研修への積極的な参加と、そこで得た成果の共有化</li> <li>(2) 授業公開を通して、主体的な学びの促進を図るためのICT活用スキルの共有化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 研修参加者数が増えたかどうかと、校内研修会の実施状況。</li> <li>(2) 校内における公開授業への参加状況。</li> </ul>		

<p>(3) タブレットの使用方法について、各学年教科等で機会を捉えて指導</p> <p>(4) 教科内外で観点別学習状況評価に関する研究会の実施</p>	<p>(3) タブレットの破損数が減ったかどうか。</p> <p>(4) 指導と評価の一体化が進んだかどうか。</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校外で実施された研修に22名(43講座)の教員が参加し、そのスキルを各分掌、教科等で共有した。また、校内研修会は一斉に行うものを13回実施した。</li> <li>6月にすべての教員が同一教科内だけでなく教科の垣根を越えて公開授業、授業参観を行い、自己の教科へ導入できる手法の模索など生徒が能動的に学ぶ授業についての研究を学校全体で推進した。また、11月には各教員が生徒に対して授業評価を行い、各自の授業改善を図った。</li> <li>タブレットについては、故障は10件で昨年度とほぼ変わらないが、破損は14件で昨年度から半減した。全生徒分のカバーを購入して装着させたことが功を奏したと思われる。</li> <li>観点別学習状況評価については、1、2年生の2学年で行ったが、昨年度よりも携わる教員が増えたことにより各教科での研究が進んだ。一方、課題も明らかになってきた。</li> </ul>	<p>10 評価視点</p> <p>①研修参加者数と校内研修会の実施状況 【R4】27名、54講座</p> <p>②公開授業への参加状況</p> <p>③タブレット破損数 【R4】故障13、破損31</p> <p>④評価と指導の一体化の進捗状況</p>	<p>11 評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
<p>12 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○タブレットをはじめとするICT機器やデジタル採点システム「百問繚乱」については、すべての教員が使用できるようになり、授業でICT機器を使用することが当たり前となった。</li> <li>○タブレットの取り扱いについては、生徒に対する注意喚起を継続するとともに全生徒のタブレットにカバーを装着することにより、破損が激減した。教員のタブレットにもカバーを装着できるとより良い。</li> <li>▲現在、様々なものがデジタル化の方向に進んでいるが、アナログの方が良いこともあるため、うまくバランスをとることが必要である。</li> <li>▲観点別学習状況評価については、各教科での研究が進んでいるが、まだ課題が多い。指導と評価の一体化に向けて研究を継続する必要がある。</li> </ul>	<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>	
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <p>(1) ICT機器の活用方法についての研究をさらに進めるとともに、TPOに応じてアナログとのバランスをとっていききたい。</p> <p>(2) 観点別学習状況評価については、他校の状況も参考にしながら、教務部を中心として評価方法の研究を引き続き進めていききたい。また、ICT活用と絡めながら、指導と評価の一体化を図っていききたい。</p>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月30日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットの使い方について、高校卒業後は大学等でキーボード入力も必要となるため、パソコンのような使い方も指導する必要があるというご意見をいただいた。</li> <li>コロナ明けの授業形態についての質問をいただいた。基本的には対面授業に戻っているが、必要に応じてオンライン授業を行っていることを説明したところ、生徒の反応を確認しながら授業を進めることが一番大事であるというご意見をいただいた。</li> <li>授業評価についての記述が曖昧であったため、授業を評価するのは教員なのか生徒なのかという質問をいただいた。生徒がアンケートに回答する形で教員の授業を評価するものであることを伝えたとこ、生徒の意見を吸い上げることはとても良いことであるという評価をいただいた。</li> <li>観点別学習状況評価について、より詳しい説明を求められた。3観点の詳細、本校や他校の現状、今後の予定を伝えたとこ、生徒のためになるように研究を進めてほしいという要望をいただいた。</li> </ul>
--

3 評価する領域・分野	◇生徒指導													
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	アンケートでは本校の生徒指導に対して、生徒及び保護者から概ね良好な評価を得ているが、各項目で本校の教育活動について「わからない」とする回答が一定数みられる。コロナ対応も徐々に緩和されていくことから、保護者や生徒が本校の教育方針をさらに理解できるよう、活動を積極的に発信していくことが必要と考えられる。													
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自ら進んで挨拶できるよう指導する。</li> <li>・生徒の思い出に残るような学校行事の開催を目指し、生徒会や各委員会が主体的に活動できるよう手助けをする。</li> <li>・不登校傾向の強い生徒に対する教育相談体制を強化する。</li> </ul>													
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶、身だしなみに関する指導を全職員で行う。</li> <li>・生徒指導部を中心に、他の分掌と連携しながら全職員で学校行事の実施にあたる。</li> <li>・担任、教育相談係を中心に情報共有をおこない、スクール相談員と連携して教育相談にあたる。</li> </ul>													
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標													
<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶や身だしなみをはじめとする生徒指導を全職員で行う。</li> <li>・交通安全協会と連携して、MSリーダーズによる交通安全運動を実施する。</li> <li>・教育相談係、担任や学年会、保健室、スクールカウンセラーの連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの実施、結果の分析</li> <li>・迷惑調査結果・遅刻統計結果</li> <li>・ボランティア活動記録</li> </ul>													
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・月間テーマで挨拶や身だしなみについての指導。</li> <li>・交通安全協会と連携して、MSリーダーズと職員による交通安全運動の実施。地区交通安全推進大会への参加とその報告。</li> <li>・教育相談係、担任や学年会、保健室、スクールカウンセラーとの連携、教育相談の必要な生徒への対応。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎月テーマを決めて指導することができた。</li> <li>② 交通ルールやマナーの啓発、ヘルメット着用の呼びかけをおこなった。</li> <li>③ 悩みを持つ生徒の情報共有をおこない、本人・保護者の相談に乗るなど、寄り添うことができた。</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D											
A	B	C	D											
A	B	C	D											
12 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶や身だしなみについて月間テーマで啓発をおこったほか、校門での指導や普段の呼びかけで、挨拶や身だしなみについて生徒が意識して行動するようになった。</li> <li>○年度当初は自転車による事故が頻発したが、自転車乗車時のルールやマナーを呼びかけることで改善がなされた。</li> <li>○教育相談係が学年と連携して、心配な生徒への声掛けや面談等をおこない、生徒が抱える悩みを把握し、SCなどにつなぐことができた。</li> <li>○コロナによる制限が明け、それ以前の学校祭や球技大会を知らない生徒や担当職員が知恵を出し合い、行事を成功に導いた。</li> <li>▲自分自身の身だしなみを常に意識して行動できる生徒ばかりではないので繰り返し指導をしていく必要がある。</li> <li>▲自転車事故は減少しているが、まわりに配慮したとは言えない行動の指摘が外部からなされることがある。</li> <li>▲教育相談にかかわる案件が減少していない。</li> </ul>		<table border="1"> <tr> <td colspan="4">総合評価</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	総合評価				A	B	C	D			
総合評価														
A	B	C	D											
13 来年度に向けての改善方策案														
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修会等を活用して、全職員の生徒指導意識の向上をはかる。</li> <li>・引き続き教育相談部会や学年会などで、生徒情報の共有強化をはかる。</li> <li>・学校行事の振り返りをおこない、改善していく。</li> </ul>														

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月30日

### 【意見・要望・評価等】

- ・高校生が思っているよりも交通事故の危険性は高いので、生徒への注意喚起をお願いしたい。

3	評価する領域・分野	◇進路指導部	
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ下でも、学力とキャリア形成について3年間を見通した流れを生徒・保護者・職員に提示、進路指導の内実を満たせた。</li> <li>・進学指導重点校事業、ICTなどを有効活用できた。</li> <li>・推薦入試の実態の変化に合わせた規定の改善ができた。</li> <li>・外部に出かけてのキャリア意識醸成の機会が不十分だった。</li> <li>・受験期の学習支援が、コロナ禍や高校入試の制度変更によって、従来のようにはできなかった。</li> <li>・新課程についての情報収集と対応を進める必要が高まった。</li> </ul>	
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模試などのデータを分析し、生徒と学年会に向けて具体的な指針となる情報提供を行う。</li> <li>・外部活力など、生徒のキャリア意識醸成に資する取り組みを積極的に展開する。</li> <li>・新課程入試をはじめ、進路に関する情報に対してアンテナを高くし校内の指導体制の改善に活かす。</li> </ul>	
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年正担任2名ずつの進路指導部と副担任1名により、模試データ分析と資料作成、学年集会等の企画を実施する。</li> <li>・卒業生の後輩支援登録者、多北コネクションなどの外部人材と、校内職員の人脈を有効に活用する。</li> <li>・八校会をはじめとする進路指導担当者の連携。受験産業の営業担当をはじめとする外部組織の活用。</li> </ul>	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8	達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1)	従来よりも詳細なデータ分析を行った資料を作成し、学習の成果と課題を具体的かつ客観的に集会などで伝達する。	(1)	各学年でコロナ下の時期より多く進路情報提供の機会を設け、学力伸長に資することができたか。
(2)	TSP、TGPの回数を増やす、校外研修などの機会を活かすなどして、生徒を様々な学問ジャンル、職種に関する情報に触れさせる。	(2)	コロナ下の時期よりも多く、生徒の志望の実態に即したキャリア意識醸成の機会を設定できたか。
(3)	各校の進路指導部との情報交換を密にすると共に、受験産業からの情報を校内に迅速に共有する。	(3)	Teamsなどを活用し、進路指導部の連携が活発にできたか。進路情報を、インフォメーションなどを通じて校内に周知できたか。
9	取組状況・実践内容等	10	評価視点
(1)	従来よりも情報提供の機会を増やし、職員生徒に共有できた。	①	情報提供の回数と効果
(2)	コロナ前よりも多様な行事を実施し、多くの生徒に刺激を与えることができた。	②	キャリア教育関連行事の回数と多様性
(3)	新課程に関連して情報収集を励行できた。	③	進路関連情報収集の励行
11	評価		
(1)	A (B) C D		
(2)	(A) B C D		
(3)	(A) B C D		
12	<p>○コロナ明けの機会をとらえて、本校として担うべきキャリア教育の機能を取り戻し、発展させることができた。</p> <p>○新課程入試への対応はまだ不透明なところが多くあるものの、現状におけるあるべき対応を実行することができた。</p> <p>▲データの活用については発展途上にあり、分析を教育活動の改善にうまくつなげる工夫が今後も求められる。</p>	総合評価	
		(A) B C D	
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新課程入試が開始される年度にあたり、これまでの教育活動が十全に結果に反映される進路指導体制のひな形を確立する。</li> <li>・「年内入試5割時代」に伴う教員の負担増に対して、特に推薦入試に係る負担を全職員で負担できる体制づくりを模索する。</li> <li>・データの有効活用について、さらなる工夫を重ね、校内のルーティンに位置づける。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月30日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のキャリア意識を高める機会が多く設定されていることは、将来の選択肢を広げる意味で有効だと感じる。講座の実施に際しては、文化センターとうまく連携がとれた。</li> <li>・豊富な外部人材をますます活用して行ってほしい。多治見北の生徒は卒業後も緊密な関係を築いていて、長く頼れる人脈になっている。</li> </ul>

- ・新課程に伴う入試の変更に適応するための工夫を今後も継続して行ってほしい。
- ・推薦入試の拡大にどう対応するか、悩ましい問題があることが理解できた。